

# 「先人に学び、現代に活かす」鞭牛が拓いた命の道路 今、我々の手で更なる整備を！

牧庵鞭牛和尚 生誕300周年記念『つなげよう！高速道路ネットワーク』岩手県総決起大会を開催しました  
道路建設課

東北横断自動車道釜石秋田線や三陸縦貫自動車道、八戸・久慈自動車道等の整備促進を求める岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会等関連15団体は、三陸地域の道路開削に生涯を捧げた牧庵鞭牛和尚の生誕300周年を記念し、「つなげよう！高速道路ネットワーク」岩手県総決起大会を平成22年10月28日、宮古市民文化会館で開催しました。

大会には、関係市町村、関係団体、市民など約800人が集まり、沿岸部の幹線道路の礎を築いた牧庵鞭牛和尚の功績を振り返るとともに、県内の幹線道路網の実情を住民とともに考え、多くの未整備区間が残る岩手県の道路整備の必要性を訴えました。

## 大会概要

### 挨拶・祝辞等

主催者を代表して、岩手県知事（代読・平井節生県土整備部長）が「地域の資源を生かし、地域経済を支えていく上で、道路の整備は必要不可欠であり、高速道路ネットワークの早期全線供用をめざし、みなさんの思いとともに関係機関に訴えていきたい。」と挨拶しました。また、開催市を代表して、山本正徳宮古市長が「幹線道路は地域活性化に必要不可欠なインフラである。1日も早い全線開通を求めたい。」と挨拶しました。

開催市代表挨拶を述べる山本宮古市長



続いて、来賓の佐々木一榮県議会議長（代読・小野寺研一副議長）が祝辞を述べ、早期全線開通に向け熱いエールが送られました。

### 基調講演 『三陸に道を開いた大和尚 牧庵鞭牛の素顔』（大内 豊氏）

基調講演 大内豊氏



盛岡タイムス社社長の大内豊氏が「三陸に道を開いた大和尚 牧庵鞭牛の素顔」と題して講演しました。鞭牛和尚の足跡をたどりながら、40代で道路開削に生涯を懸ける決意をし、閉伊街道など100里400キロにもわたる道を切り開いた偉業を紹介しました。大内氏は、鞭牛和尚について、「交通体系の開発が、物流の向上など地域に活力をもたらすという基本認識にたけており、260年も前にこうした視点を持っていたことは偉大である」と評価したうえで、「そして我々一人一人が現代の鞭牛として、道路ネットワークの整備促進を訴えていく」との決意も込めた講演を行いました。

### 講演 『三陸の道路今昔物語』（平井 節生 県土整備部長）

県からは、平井県土整備部長が「三陸の道路今昔物語」と題して、県政映画や記憶に新しい平成22年2月28日に発生したチリ地震による津波の映像などを交えながら、昭和30年代からの道路事情の変遷や現在の高規格幹線道路の事業箇所等を紹介しました。

講演 平井県土整備部長



## 意見発表

市民の意見発表では、(有)宮古市場運送の澤留八代表取締役、東北横断自動車道及び三陸縦貫自動車道整備促進釜石ロード女性の会の竹内敦子会長、明日を拓く宮古のみち女性の会の木村彩子監事が登壇し、道路整備に向けた取組強化を要望しました。

明日を拓く宮古のみち女性の会  
木村彩子監事



## 大会決議

いのちの道路整備促進市民会議の花坂康太郎会長が「**ミッシングリンクを解消し早期全線開通 道路整備予算の確保 社会資本整備総合交付金の十分な確保 道路事業の費用便益分析に救急医療、災害対策、地域振興の要素を加えるなど地域の実情を十分考慮し、総合的な事業評価を**」と大会決議案を読み上げ、満場の拍手でこれを承認しました。

最後に、沿線首長らが登壇し、高速道路ネットワークの早期実現の決意を込めて、出席者全員で「がんばろう」を三唱し閉会しました。



ぼくあんべんぎゅう  
『牧庵鞭牛和尚』ってどんな人？

**牧庵鞭牛(1710年～1782年)**は、宮古市和井内清水に生まれ、釜石市橋野の林宗寺の住職となり、引退後に**閉伊地方の道路開削にその半生を捧げました。**

歴史的に、北上高地の閉伊地方は、他地域に比べて開発が遅れた地域と言われており、街道は険しい難所続きの山道でした。また、この時代の盛岡藩は凶作が多く、鞭牛は、飢饉に喘ぐ農民の姿を見て、物流道路が拓かれていたならば、死ぬことはなかった命を憐れみ、供養しながら、農民を救う道路開削を決心したと言われています。

寛延3年(1750年)に最初の道路開削に着手し、釜石市橋野町から大槌町への近道となる小枝街道の道づくりを実現させました。住民らも、次第に協力するようになり、閉伊川沿いをはじめ、岩泉・宮古・山田・大槌・釜石など次々と拓かれていきました。開削にあたっては、ノミなどの基本的な道具を使用しつつも、道をふさぐ巨岩に対しては、薪で熱し冷水をかけ、脆くしてから破壊する「火焰法」と呼ばれる、当時としては画期的な方法を使用しています。

天明元年(1781年)の吉里吉里峠の改修を最後に、**73歳の生涯を閉じるまでに携わった道路の総延長は約400km**と言われています。

今回の大会では、鞭牛和尚生誕300周年を記念し、盛岡タイムス社社長大内豊氏の基調講演の他、同会場にて鞭牛和尚の功績を辿るパネル展なども開かれました。

